○地域・社会貢献研究

研究課題

「車いすソフトテニスの新規開発：地域に根ざすリハ・レクスポーツを目指して」

○研究代表者　人間科学センター教授　井田博史

○研究分担者　理学療法学科准教授　橘　香織／医科学センター教授　六崎裕高／筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授　中島幸則／日本医科大学医学部スポーツ科学教室准教授　高橋憲司　（ 4 名）

○研究年度　令和 6 年度

（研究期間）　令和 6 年度 ～ 令和 7 年度（2年間）

1. 研究目的

車いすテニス（硬式）は，近年その高い競技性でも注目を集める．一方，リハビリテーションの現場では「いつでも，どこでも，だれでも」できるバリアフリーなスポーツが求められており，学校教育用に広く根づいているソフトテニス（軟式）は，このようなリハビリテーション・レクリエーションスポーツ（リハ・レクスポーツ）としてのニーズに合致するといえよう．しかしながら，ソフトテニスが日本で発祥して以来，車いすソフトテニスの統括競技団体は存在せず，また実質的な活動事例も見当たらない．

本研究の目的は，車いすソフトテニスを新たに発足させ，本学および近隣自治体を中心とした活動拠点を作り，また競技ルールの制定に向けて試案を提示することである．そのなかで本年度中の目標としては，車いすソフトテニスに対する認知度向上を目指して，体験会イベントなどの教育啓発活動を実施することを掲げた．

2. 研究方法

2-1. 車いすソフトテニス体験会 in 有明コロシアム（2024年10月17日　於有明テニスの森公園）

第79回天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会の決勝会場である有明コロシアムにおいて，車いすソフトテニス体験会を開催した．参加者の募集は大会公式webサイトから行い（https://alljapan-softtennis.com/infomation1017/），また（公財）東京都障害者スポーツ協会のwebサイト（TOKYOパラスポーツ・ナビ）でのイベント情報掲載や東京都障害者総合スポーツセンターでのビラ掲示などでも宣伝した．

講師スタッフは，塩嵜弘騎氏（和歌山県庁・全日本男子U-14チームコーチ），渡邊晶子氏（出張型運動遊び教室コモット代表・ヨネックスサポートスタッフ），緒方貴浩氏（帝京大学・男子ナショナルチームアナリスト），小倉彩音氏（筑波大学大学院・アスレティックトレーナー），そして研究代表者の井田が務めた．また，車いすテニスのプロとして東京パラリンピック，パリパラリンピックに出場した荒井大輔氏（BNPパリバ）もゲスト講師として招聘した．同氏は幼少時より義足を使用しながら，中学校と高等専門学校では部活動でソフトテニスをプレーし，健常者部員のなかで部長を務めるほどソフトテニスにも精通する．加えて，本学ソフトテニスサークルからも学生5名がサポートスタッフとして参加した．コートサーフェスはハード（DecoTurf）であった．

2-2. ふれあいソフトテニス交流（2024年11月30日　於日本体育大学横浜・健志台キャンパス）

日本ソフトテニス研究会第7回大会における企画「ふれあいソフトテニス交流」において，大会参加者が自由に使えるように競技用車いすを提供した．研究代表者の井田を含む同研究会運営委員，および日本体育大学ソフトテニス部の部員がサポートにあたった．コートサーフェスは人工芝であった．

2-3. 車いすソフトテニス自由体験会（2025年2月12日　於帝京大学八王子キャンパス）

日本ソフトテニス研究会の公式事業である第9回インターカレッジソフトテニスフォーラムにおいて，企画「車いすソフトテニス自由体験会」を実施した．研究代表者の井田に加えて，同研究会運営委員である緒方貴浩氏（帝京大学），高橋和孝氏（日本女子大学），楠堀誠司氏（県立広島大学），またソフトテニスU-17女子チームのコーチを務める尾上胡桃氏（日本体育大学），そして帝京大学ソフトテニス部の部員がサポートにあたった．コートサーフェスは体育館フローリング（木製床）であった．

2-4. ジュニアソフトテニス講習会 & 車いすソフトテニス体験会 in 霞ヶ浦高校（2025年2月16日　於霞ヶ浦高等学校第2グラウンド）

阿見町教育委員会生涯学習課および筑波大学ソフトテニス部と連携して，近隣地域の中学校生徒を対象としたソフトテニス講習会を開催し，あわせて「車いすソフトテニス体験会」も実施した．阿見町内の中学生の募集にあたっては，同町のアプリ配信を利用した．ソフトテニス講習会と車いすソフトテニス体験会の講師はそれぞれ霞ヶ浦高等学校ソフトテニス部監督の藤岡一雄教諭と研究代表者の井田が担当し，楠堀誠司氏（県立広島大学）と同校ソフトテニス部の部員がサポートにあたった．コートサーフェスは人工芝であった．

なお，使用した競技用車いすは研究分担者の橘が事務局長を務める（一社）シッティングスポーツ協会，有明テニスの森公園，（株）松永製作所，（株）幸和義肢研究所からレンタルした．また，本研究費により購入したテニス競技用車いす2台も使用した．

図1 車いすソフトテニス体験会(有明コロシアム)

3. 研究結果

「車いすソフトテニス体験会 in 有明コロシアム」においては，事前申込者18名のうち慢性疾患のある1名と下肢障害のある1名がキャンセルし，当日の参加者16名はすべて健常者であった（図1）．車いすソフトテニスの経験がある参加者は1名（1回）であり，それ以外はすべて初めてであった．全体の内容は，ウォーミングアップ（小倉），車いすの説明（井田），チェアワークとラケットワークの説明（荒井），基礎ストローク（塩嵜・渡邊・緒方），ゲーム体験であった．

日本ソフトテニス研究会第7回大会企画「ふれあいソフトテニス交流」においては，当日参加者のほぼ全員が車いすソフトテニスを体験した（図2）．大半の参加者が初めての経験であったが，ダブルスの簡易ゲームを行い，ラリーの難しさを実感しつつも，ゲームを楽しんでいる様子であった．

図2 ふれあいソフトテニス交流（日体大）

第9回インターカレッジソフトテニスフォーラムには帝京大学，法政大学，明治学院大学，慶應義塾大学，東海大学，千葉商科大学，日本ソフトテニス研究会会員などから約50名の参加があった．尾上氏によるオンコート講義の休憩時間や終了後の「車いすソフトテニス自由体験会」には，特に女子プレーヤーが積極的に車いすソフトテニスを楽しむ様子がみられた（図3）．

図3 車いすソフトテニス自由体験会（帝京大）

「ジュニアソフトテニス講習会 & 車いすソフトテニス体験会 in 霞ヶ浦高校」には，阿見町の2つの中学校から10名，つくば市の4つの中学校から10名の参加があった（図4）．参加者は，県内で最上位にいる同校（2024年度インターハイ個人戦準優勝など）のハイレベルなソフトテニスのプレーを体験しつつも，「車いすソフトテニスは楽しい」などの感想を述べていた．

4. 考察（結論）

車いすソフトテニスを初めて経験する参加者が大半であったが，一様にプレーを楽しんでいる様子であった．一方で今年度の参加者はすべて健常者であり，今後障がい者にも積極的にアプローチする必要性を感じた．来年度は，東京都障害者スポーツセンターでのイベント開催や，（一社）茨城パラスポーツ協会との連携などを進め，車いすソフトテニスのコミュニティ形成を図りたい．

図4　車いすソフトテニス体験会（霞ヶ浦高）

※写真は許諾を得て掲載

5. 成果の発表（学会・論文等，予定を含む）

井田博史，塩嵜弘騎，渡邊晶子，高橋憲司，高橋和孝，緒方貴浩（2024）：車いすソフトテニス体験会から得られた今後の普及活動への示唆．日本ソフトテニス研究会第7回大会，神奈川県横浜市．

6. 参考文献

(公財)日本ソフトテニス連盟（2014）：笠井達夫，野際照章，神崎公宏，北本英幸，井田博史，小西俊博，武田博子，松口康彦（編），最新版ソフトテニス指導教本．東京：ベースボール・マガジン社．